

おいしいおにぎりができるまで

名取市立増田西小学校 2年 武 藤 裕

ごはんをたべたあと、お茶わんにごはんつぶがのこっていると、
ぼくのお母さんは「お米はみのるまでが大へんだから一つぶものこ
しちゃいけないの」と言います。お母さんが小学生だったころの教
科書に「おいしいおにぎりをたべるには」というお話がのっていて、
今でもおぼえているのだそうです。そこで、ぼくもそのお話を読ん
でみました。

おなかを空かせたおおかみが、のう家のおじいさんからおにぎり
をもらいました。それがとてもおいしくて、作り方を聞きます。お
じいさんは春になえをそだてて田うえをすること、夏のあつい日に
草をとり、台風をのりこえて秋にお米がみのることをお話しします。
おじいさんのお話を聞いているおおかみがすぐ「それでおにぎりが
できるのか」とたずねるのがおもしろかったです。

秋になって、お米がみのってからもおにぎりはまだ、たべられま
せん。いねかりをして、だっこくをして、せいまいをします。そこ
でやっとお米をたいて、あついのをがまんしてしおをぬった手でぎ
ゅつとにぎって、おいしいおにぎりができるのです。

ぼくの小学校のすぐとなりには田んぼがあります。でも、のう家
の人がおせわをしているところをちゅういして見ていなかったので
春にうえたなえがお米になるまで、やらなければいけないことがこ
んなにあるなんて、本を読んではじめてしりました。

ぼくは、お母さんがどうしてごはんをのこしてはいけないと言っ
ているかやっとうわかりました。いつも当たり前にとべていたお米だ
けれども、お米をそだててくれた人、ごはんを作ってくれた人にか
んしゃしながら、のこさず大じにたべたいと思います。